

においを嗅ぐ

キタコブシ



花のにおい — エゾノウワミズザクラ



満開のエゾノウワミズザクラ。姿よりにおいが先に感じられることもしばしばある

5～6月、平地の林縁部を歩いていると、姿が見えなくても、エゾノウワミズザクラのえも言われぬいいにおいがしてくることがあります。



エゾノウワミズザクラの花。アイヌ語でキキンニ。強い香気で病魔を追い払うという。

葉のにおい — エゾニワトコはちょっと嫌なにおい

エゾニワトコかな？ と思ったら葉を指先でもんで、そっとにおいを嗅いでみて下さい。二度と嗅ぎたくないと感じる人も多いと思います。

アイヌ語ではソコンニといますが、「フンをつけている木」の意味だそうです。



エゾニワトコの葉



赤い実をつけたエゾニワトコの木。あまり大きくない

実のにおい — キハダの実はミカンのにおい



キハダの実。秋になると熟して黒くなる



キハダ

キハダはミカンの仲間です。実を取ってにおいを嗅ぐと、ミカンのような（柑橘系の）香りがします。

アイヌ語ではキハダの実のことをシケレペ（ぬるぬるした実）と呼びました。取ったあと乾燥させて保存し、一年を通じて食糧や薬として欠かせないものだったといひます。

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜細亜社 1990
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「治水の杜 ガイドブック」北海道開発局帯広開発建設部 2002